



「**森**を歩く」のススメ

森林への理解の入口

国際森林年の国内テーマ設定に当たり、第1回国際森林年国内委員会の議論の中で、「我が国の森林・林業のおかれた現状を認識し、課題を克服するための未来に向けたメッセージの必要性」、「林業に関わる者だけでなく、国民全体と森林のきずなを取り戻すため、国民目線で森林との関わりや森と親しむことを提案する具体的なメッセージの必要性」など幅広い議論が行なわれました。

このことを前提に、国際森林年の国内テーマを「**森を歩く**」とし、サブテーマとして「未来に向かって日本の森を活かそう」、「森林・林業再生元年」とすることが決定しました。

「森を歩く」というテーマは国民による**森林への理解の入口**として、容易に参加できる具体的行動を提案するもの



2011・国際森林年

国際森林年のロゴマーク

「Forests for People(人々のための森林)」というテーマを伝えるもので、世界の森林の持続可能な経営、保全等における人間の中心的役割をたたえるものです。人々の居住環境や食料・水等の供給、生物多様性保全、気候変動緩和といった森林の多面的機能が人類の生存に欠かせないものであることを訴えるデザインとなっています。

です。国民が森を訪れることにより、林業を含む地域産業への波及も意図しています。また、森林・林業再生プランの推進に当たり、関係者自らが現場の森林を歩き、現状を体感することも求めています。

「森林・林業再生元年」を契機に、未来に向かって豊かな森を引き継ぎ、森に関わる人を育くみ、暮らしの中で木を使うことが進むよう期待しています。その思いを込めて「未来に向かって日本の森を活かそう」というサブテーマが添えられています。

「森を歩く」ことは、林業への現状認識や未来の子どもたちの教育だけでなく、都市生活で低下している大人の気力・体力に資するものです。このため、関係者も積極的に森を歩くことで、能力をフルに発揮できるようにしたいと考えています。

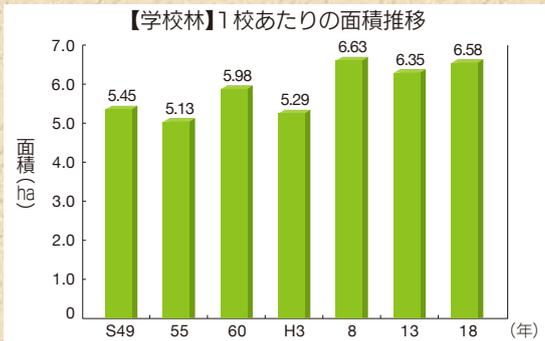
あるものは？

未来に向かって日本の森を活かそう

森に学ぶ

森林は「森林の持つ役割」や「生物多様性」、「昆虫採集」など、様々な側面があり、地球の営みを学ぶ（＝森を歩く）場としては、課題学習の宝庫です。

これからの未来を担っていく子供たちが、自然の大切さを学ぶフィールドの一つに学校林があります。学校林は一校当たり6.5ha余りありますが、利用している学校は、



資料：林野庁業務資料



北海道森林管理局「木の健康診断体験」

3割程度にとどまっているのが現状です。この活動を広げていく目的で毎年開催されているのが、「学校林・遊々の森」全国子どもサミットで、5回目になる今年も長野県松本市で8月4日～5日にかけて開催されます。活用される森は、手入れの行き届いた「生きた森」となり、持続可能な森林経営にもつながります。

森と触れ合う

森林を活用して各地で開催されるイベントの中には、「巨木巡り・森林ふれあいツアー」（北海道森林管理局）など、観光に結び付く取り組みがあります。加えて、エコツアーリズム推進法なども制定され、エコツアーリズムを積極的に推進していく動

きが高まっています。また、「健康」、「教育」、「国民参加」、「環境」、「木材利用」という各分野と連携することで、地域の活性化と観光業の発展という、さらなる相乗効果を見込むことが可能です。

森に癒される

近年の健康ブームの中、有酸素運動のひとつとしてウォーキングが注目されていますが、「森を歩く」ことは、歩くという身体的な健康や森林浴、「きれいな空気」体に優しい、「樹木の香り」による精神面に対する効果が大きいと言われています。



奥入瀬渓流

ストレスホルモンを減少させる癒し効果があり、予防医療などに役立るといふ動きもあります。



北海道森林管理局「標茶のミズナラ」

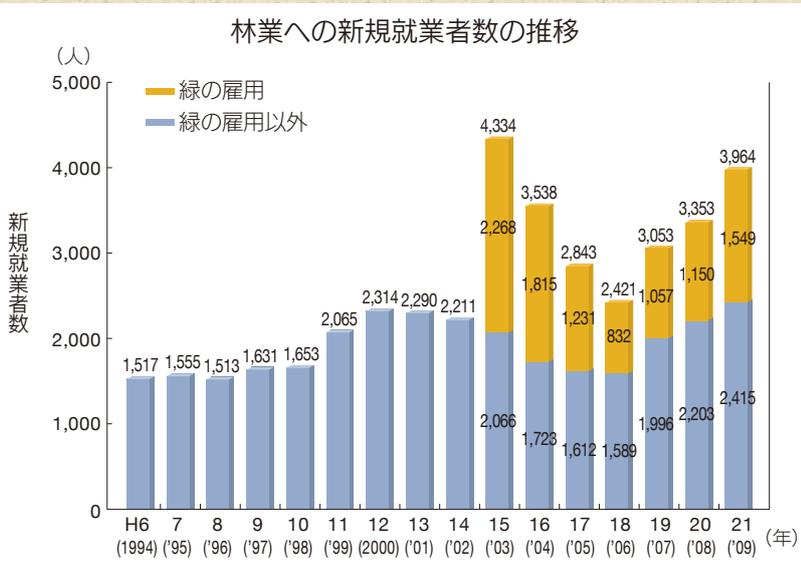
国際森林年 イベントカレンダー

4月	5月
アースデー 記念植樹（独森林総合研究所森林農地整備センター、6地方整備局）こと開催） 森の誕生日（島根県松江市） 島根県民の森ふれあい講座 安曇野春まつりチャリティーイベント（長野県安曇野市）	国際生物多様性の日（生物多様性と森林） 第67回市民植樹祭（北海道北見市光葉町） 国土緑化・国際森林年記念切手発売 全国植樹祭（和歌山県）

森林・林業再生元年

森と生 きる

「森林・林業再生」に
取り組む元年、日本が
抱えている課題の一つ
は、林業を担う労働力
確保です。40年前に
比べ、蓄積は2倍強（平
成19年3月31日時点）
になった日本の森林資
源を効率的に利用し、
「植える」「育てる」
↓「収穫・活用する」
↓「植える」というサ
イクルが循環するため
には、林業従事者の確
保が欠かせません。
林野庁では、継続し



資料：林野庁業務資料

森を守る

確保してきた現場
技能者を段階的か
つ、体系的に育成し
ていくため、民間団
体等が行う就業体験
やガイダンス、3年
間のOJT研修等を
支援します。
森への理解の入口
が新規就業者の確保
につながることを期
待されます。

地球温暖化の原因と
なっている温室効果ガ
スの削減は、我が国が
約束している京都議定
書での削減目標6%の
うち、3・8%が森林
による吸収で占めるこ
とになっています。森
林にはこのような地球
を守るという大きな役
割に加え、水源かん養、
土砂災害防止など国民
生活に欠かせない機能
も有しています。
我が国の森林は資源
として利用する時代を
迎えています。間伐
材のマテリアル利用、



エネルギー利用を進め
つつ、平成19年度から
6年間で330万haの
実施を目標として間伐
を実施しています。
森を守る活動は、こ
うした林業を通じて行
われるもののほか、N
PO等による森林ボラ
ンティア、企業のCSR
活動、漁業者による
植林など様々な形態で
進められています。



基礎研修の様子

11月	10月	8月	7月	6月
全国育樹祭(奈良県) 九州森林の日 ひょうご森のまつり 森林と市民を結ぶ全国の集い 子ども樹木博士勉強会	間伐材活用シンポジウム (国土緑化推進機構・毎日新聞社) 親林の集い(一般公開)(独)森林総合 研究所林木育種センター チエンソーアート文化祭 (福島県古殿町) 木づかい推進月間 木材を活用した学校づくり講習会	緑の少年団活動発表大会(島根県) 「学校林・遊々の森」全国子ども サミット in 信州(長野県松本市) 国民参加の森林づくりシンポジウム (独)森林総合研究所東北・四国・九州 地区一般公開 森を歩く・日本の自然100選フッ トバスツアー(木曾・上松町)	森の聞き書き甲子園研修会 緑の少年団全国大会(山梨県) 国際森林年記念「森を守る」チャリ ティーコンサート (浜離宮朝日ホール) 森と湖に親しむ旬間 (国土交通省、農林水産省、都道府県等)	第60回留辺蘂町みどり祭 (北海道北見市留辺蘂町) 第62回北海道植樹祭 in おびひろ (独)森林総合研究所公開講演会、 同研究所北海道地区一般公開 フレデリック・バック展 「木を植えた男」(東京都現代美術館)